

9月30日 本会議質問

● 京都への還幸について

(一之湯) 震災以後、大規模災害時に国家機能がマヒしないよう、東京から離れたところに首都の代替機能が不可欠との認識が共有された。関西広域連合は、国に「首都の代替機能を関西に」と提言をし、その中で皇室にも触れている。私も、皇室の方々に京都にお戻り頂きたいが、知事の考えはどうか？

(山田知事) 首都圏で大災害が起きれば、日本全体が機能マヒする。一極集中を改めるために首都の代替機能は不可欠で、御所を有する京都は皇室の安心・安全にお役に立てる。一時的な還幸や皇室の一部の方々の居住などは十分あり得る。「京都の未来を考える懇話会」で京都全体のあり方をふまえて提言をまとめた。

(二ノ湯) 広域連合の提言では、首都機能として「政治・経済」は言うが、「文化」が無い。かつて日本の首都は、文化の京都・政治の江戸・経済の大坂と3つあり機能が分散していた。今、その首都機能分散を言う時に、何故「文化」が無く、また何故それを京都が良しとしたのか？文化なくして国家無しなのである。

首都機能分散は、東京中心に「モノ・カネ」ばかり追い求めた生き方を反省し、皇室の意義を考える中で、「見えないもの」にも感謝してきた日本人の生き方・文化を見直すきっかけともなる。その意味で、先の「提言」の修正を求めたい。

● 府市の体育館改修における連携について

(二之湯) 府立体育館の改修に伴う設計費が提案されているが、平成25年度から市立体育館の改修も予定されている。府と市では、今後の運営や整備についてどのような連絡・調整を行ってきたのか？

(井上政策企画部長) 県庁所在地のほとんどのところで、府県立と市立の体育館がコンビで存在しているし、国際大会や全国大会の誘致には、2箇所の基幹会場を持つのは大変有利である。府民・市民の迷惑にならないように



● 京都マラソンについて

(二之湯) 来年3月11日に京都市が開催予定の京都マラソンに際して、コースや交通規制について、京都府警として企画段階からどのような指導をしてきたのか？

(安森警察本部長) 京都府が表明した京都マラソンについては、市からの相談に基づき、道路交差点に基づき検討している。平成22年10月以降、市主催で「コース検討会」や「交通対策調整会議」を開催し、沿道住民の理解と協力を得られるよう、また緊急自動車・路線バス・福祉関係車両等の運行に支障をきたさないよう、交通総力の抑制などを実施するよう指導・助言している。今後も引き続き行う。

(二之湯) 例えば、右京区のコースは片側1車線の道が多く、15000人のランナーと、緊急自動車や公共交通の運行との両立は難しい。交通規制の許可は、住民要望には厳しい。市民が「行政は特別扱いか！」と思うような結論にならないよう、交通総量35%の削減が担保されて初めて交通規制の許可を出すべきだ。警察の適切な対応を期待し見守る。

府議会報告

● 5月臨時議会

5月23日～5月27日 府内中小企業の緊急支援、被災地・被災者等に対する追加支援、防災体制の見直し等を中心とした約210億円の補正予算等が可決しました。また、議長には近藤永太郎氏(自民党)、副議長には小巻實司氏(自民党)が、ともに自民党から選ばれました。

● 6月定例会

6月23日～7月8日 東日本大震災の影響による経済の悪化やエネルギー対策のため、景気・求人回復の施策、省エネ・創エネ対策などを中心とした約31億円の補正予算等を可決しました。

お困りごとなど「相談ください」

皆様にとって、行政の仕事の役割分担は分かりにくいものです。「どこに相談に行けばいいのかわからない」とお悩みの時は、私の事務所まで、お気軽にお問い合わせください。

◆ 二ノ湯しんじの場所！

東映京都撮影所 三条通 大映通 京福嵐山線 広隆寺 二ノ湯しんじ事務所

右京区太秦多藪町44-1 (大映通り)
TEL 075-862-1355
FAX 075-862-1350



◎ お問い合わせは、二ノ湯しんじ事務所まで

"しんじ"を信じる 京都府議会議員 第12号 編集・発行 二ノ湯しんじ事務所

〒616-8167 京都市右京区太秦多藪町44-1
TEL: 075-862-1355 FAX: 075-862-1350
✉ ninoyushinji@palette.plala.or.jp
URL: http://www.ninoyu.net ツイッター@NINOYUshinji

二ノ湯しんじ通信

今こそ、伝統が未来を拓く！
大自然と調和した潤いある生活の再生に向けて



国政の危機を地方自立の好機に！強い地方の連合が国を支える！

民主党政権誕生後2年足らずの間に3人目の野田総理が誕生しました。自民政権末期と同様の状況です。批判ばかりの野党に過ぎない自民党の支持も伸びず、不満や怒りを超えて、国政への無関心やあきらめが広がっています。政権奪取が目的だった民主党と、政権維持が目的化した自民党。実態として、2大政党は考えを同じくする政治家達の集団ではないので、国難に際しても、国創りの指針・具体的な政策を提言できないのです。

国に権限が集中し、地方に独自の工夫の余地が乏しい今の制度では、国政の混乱・停滞は、そのまま地方に伝わります。国が全国一律に「こうしなさい」と決めつけてきたので、今も地方は中央の指示待ちで、危機感も薄いのです。明治以来の中央集権体制の弊害であり、改めるべきです。そもそも日本は分権型の国家でした。江戸時代には、文化の京都・政治の江戸・商業の大坂が首都機能を分け持ち、300余りの藩は、独自に運営をしました。町や村でも、一部の警察・裁判権をも含む自治を行いました。その地力が、明治以降の急速な近代化を支えたのでしよう。京都ですら、実質的にも意識の上でも、単なる一地方都市に成り下がっています。「国がダメなら地方が頑張る」という意識で、国政の混乱を地域の自立の好機とすべきです。京都でも、府市の垣根を超えて将来像を描き、二重行政を解消してその実現の財源を創る、そのような取組を加速します。引き続きこの指導を宜しく願います。

東北の震災に続き、近畿も台風12号の被害に見舞われました。犠牲者を悼み、被災地の方々に心よりお見舞いを申し上げます。天災に加え、自然への畏怖を忘れた人災の側面もあります。「自然との共生」の知恵と強い絆で郷土を再生しましょう！

自民党京都府連の行事案内

〈政経セミナー〉

とき：11月27日(日) 13:00～
場所：京都市勤業館・みやこめっせ
会費：3万円
第1部：13:00 時局講演会(講師:金美齢先生)
第2部：14:30 懇親パーティー
* 政治資金規正法第八条の二に規定する政治資金パーティーです。

〈青年局セミナー〉

とき：平成23年11月12日(土) 13:30～
場所：京都ロイヤルホテル
会費：第3部のみ2000円 他は無料
第1部：講演会(講師:西村孝平 株式会社八清代表取締役)
第2部：討論会(二之湯も登壇します)
第3部：懇親会

ツイッター@NINOYUshinji 「主に、京都の改革を提言しています。是非フォローを！」

ホームページもご覧下さい！
URL: www.ninoyu.net

二ノ湯しんじ 検索

◆ 「ブログしんじ」「ラヂオしんじ」も 随時更新中！

歩こう会をしています！

「歩こう会」をしんじ後援会行事として引き継ぎ、毎月1回開催しています。「参加してみようかな」と思われる方は、是非事務所にお問い合わせください。

広報物の手配りにご協力ください！

政治家は日々の広報活動が大切ですが、郵送に多額の費用が要り限度があります。しかし、一人でも多くの方に読んで頂きたく、有志による手配りをお願いしています。お散歩ついでに「数か月に一度」「近所の60軒程度」、お手伝い頂けませんでしょうか？



東日本大震災の被災地3県を視察しました (7月17日~7月20日)

復興には、政府の強力な指導力が必要なことはもちろんですが、国民1人1人が長く記憶にとどめ、痛みを共有しようという努力が必要だと思います。

私もそういう意味で7月17日から20日まで、被災地の東北3県を訪問しました。



岩手県は花巻空港に到着後、被害の大きく復興も遅れているとお聞きした大鏡町を訪問しました。

町の中心にある様々な拠点施設がごとごとく津波にさらわれており、駅も無残にもプラットフォームだけが残っており、そこで花を手向けました。

壊滅してしまった町に人を呼び戻すどのように復興させるのか、私には想像がつかせませんでした。



次に訪れた陸前高田市では、大きな船が陸に乗り上げており、津波の破壊力を痛感しました。周辺には、火事の跡もありました。



気仙沼市を訪れた際は、まだ海水が一面に張り巡らされていたのですが、それは、水が抜けていないのではなく、地盤が沈下したりして、海水が少しずつであつても陸に乗り上げてきているということでした。

高速道路で宮城県から福島県に向かうと、車がピョンピョン跳ねました。倒壊には至らずとも随所が傷んでいるのです。復興には、100兆円を超えるとも言われるお金が必要だと言われるのも頷けるなと思いました。

*前回の通信でお願いをして、たくさんのカレンダーを頂きました。責任を持って被災地に送り届けました。御協力ありがとうございました。

1 京都は皇室を戴き、精神文化を核に発展



ご皇室(日本の精神的象徴)を中心とする「みやこ」であった

794年の遷都によって、京都の歴史が始まります。皇室という求心力が京都の歩みの原点・原動力です。政治・経済・文化の中心地に、多くの人引き寄せられ、そこで様々な創造が行われました。どの時代にも、国際都市・最先端都市として発展した多くの文物が産み出され、その遺産によって、今の京都が活かされていると言っても過言ではありません。

2 アイデンティティを失ったままの京都

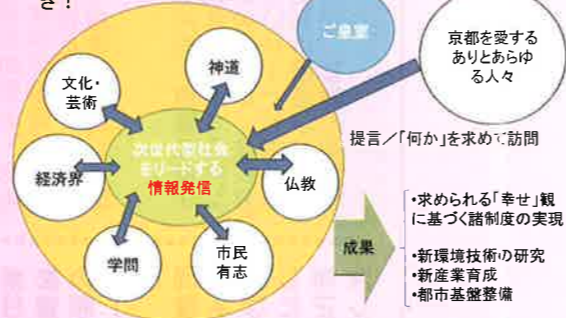


京都が進むべき指針が無くバラバラに動いている

明治初年の東京奠都により、京都は1000年以上もの中心を失いました。その後、「工業都市」「遊覧都市」「精密工業都市」等、様々な定義付けがなされましたが、しっくりこない。アイデンティティを失ったまま、じり貧を続けているというのが現状だと思います。過去の栄華を振り返り、それを守る(しがみつく)ことが、閉鎖的と言われる街にしてしまったのではないのでしょうか。江戸時代には人口40万人とも言われ、江戸・大坂とともに三都と称された京都は、徐々にその地位をうしなっているのです。

3 文化首都宣言で、創造と革新の街に

府市二重行政を解消して財源を創り、オール京都を牽引すべき!



東京一極集中が行き過ぎた今、多極分散型の国土構築が求められます。折しも、東日本大震災が起きて、首都機能を分散しておく必要が広く認められました。京都は、もう一度、その原点に立ち返るべきです。皇室を中心に高い精神文化を背景に人を惹きつけて、高い創造性を発揮し続け、常に時代の先端で革新を続けた開放的な街であったアイデンティティを取り戻すべきではないでしょうか。行政がその動きを主導すべきです。府市が心をつなげて、不要な二重行政も改め財源を創り、未来に向けた投資を始めるべきでしょう!

掲げよう、新たななる「京都構想」!

この約1年間、府と市の二重行政の実態、そしてその解決の方向性について訴えてきました。それは、府と市がバラバラに事を行い非常に非効率であるので、府市で戦略を共有・一本化し、部分的な統合も含めて役所のスリム化で「財源」を生み出すというものでした。
では、府と市の間で一本化され、重点的に財源が投入されるべき戦略の中味とは何なのか?それが、一番大事なことであります。例えば、それは「大阪都構想」では、世界を視野に入れた経済都市を目指す観点から、産業拠点であり、空港や港や鉄道などの交通インフラなどであるようです。
今後の課題は、「新京都構想」とでも呼ぶべきものを明確にすることです。私自身は、大きな方向性としては、「文化首都」であるべきだと考えます。早急にその中身の具現化に努めて参ります。

〈身辺雑記〉

前回も紹介したオペラの指揮者であるマエストロ吉田裕史氏の言葉をも一つ。「東日本の震災以後、イタリア人は日本に注目した。あれだけの目に遭いながら、懸命に復興のために力を合わせて頑張る。日本人は、どんな時にも希望を失わない民族だ、と何度も何度も言われた。日本人としてこれほど誇らしく思うことはなかった。」

日本の芸能の起源は、天岩戸開きに際してアメノウズメが舞ったこととされる。神々がその舞いに興じ、どんちゃん騒ぎで楽しんだ。岩戸に隠れた天照大御神は氣になりに外を覗く。そこで、世界に明かりが戻る。学生頃から参加している伝統文化の団体で、創作の神楽を奉納している。塩釜神社、石都々古和氣神社など、被災地の一宮を回った。復興の祈りが、神々に届いたことを願っている。(写真)



私は龍の舞を奉納する役目です

福井県の小浜から和歌山県の那智勝浦まで10日ほどかけて山を歩く「奥駆け」という修行があり、9年ぶりに2日間だけ参加した。南朝御所が置かれた吉野の吉水神社から大峰山を経て弥山岳まで。真夏の猛暑の中、両日10時間強の行程である。絶えず上り下りがあり、ちよっとした油断が大きな怪我に繋がる。山はまさに人生のようだ。その奥駆道も、台風12号により大きな被害を受けた。

温暖化が昨今のゲリラ豪雨など異常気象をもたらしている。「建築材が要る、お金になる」と、杉やヒノキばかりを植え続けたが、時代が変わり放置された山は荒れ、土砂崩れ等が起こる。経済活動最優先の結果、巡り巡って災いをもたらす。災いは、また人の心呼び覚ます。大映通りでの「被災地応援の物販」、先輩が企画した「風電チャリティライブ」にも参加した。各地で皆が頑張ろう、改まろうと思いい、その人の心の在り様が、世の中を作っていく。

私の学区の運動会に来た父が「子どもは連れてきてないのか」とがっかりした様子だった。翌日の家の日に家族そろって両親の家に向くと、父は長男を連れて散歩に行き、今まででなつかしかった二男は笑顔で抱かれた。えとす9月号に「子どもにしてやれなかつた分、孫に返してやりたい」との一文があったが、幼子は人の心をよく見抜いている。